

市民力かわら版

第27号

平成24年1月15日
編集/市民力かわら版編集委員会
発行/矢板市総合政策課
電話: 0287-43-1112
ファクス: 0287-43-2292
Eメール:
yaita@city.yaita.tochigi.jp



矢板駅前 に結集した市民力!

華やか、大盛況だったイルミネーション点灯式

矢板駅前の暮れから正月にかけての風物詩として定着した感のある駅前イルミネーション。四年前からは、市から委託されて矢板まちづくり研究所（高柳真知子代表、通称まち研）が行っている。年を追う毎に華やかさを増しているが、これに積極的に関わり、メンバーから信頼を込めてイベント部長と呼ばれている東泉和男さんにお話を伺った。

■毎年進化しています。

市民の方から寄付などもいただき、毎年少しづつ範囲を広げ、公衆トイレの屋根や、駅と交渉して駅舎の屋根も電飾で飾れるようになりました。一昨年からは、他の地域を見学して飾り付けの方法・技術などを勉強し始めたのですが、とくに、那須野が原ハーモニホール（イルミネーション）は、水面に映るペットボトルの乱反射の光がきれいで見応えがあり、学芸員の方に作り方を教わってきました。



ハンドベルの音が響きます

■矢板スカイツリー出現！
昨年は、震災などで大変な年、東京スカイツリーの建設が数少ない明るいニュースでした。そこで、「これを矢板にも作ろう！」と発案し、六百三十四メートルの百分の一の高さの「矢板スカイツリー」をペットボトルで作りました。風で飛ばされてけが人が出るとは大変なので、六本の鉄パイプでしっかりと固定した柱を作り、そこにペットボトル

を螺旋状に取り付け、展望台は竹かごで作りました。けっこう大変な作業でしたが、親子で写真を撮ってる姿が見受けられたりするので、良い思い出が作れているのかなど嬉しくなります。

■さまざまな団体が結集
今回は、まち研メンバー以外にも、知り合いの若い人たちに声をかけて手伝ってもらいました。若い人だったので頼めば来てくれます。

他にも、地元六区の小学生にも飾り付けを手伝ってもらいましたが、イキイキとしてやっています。

また、矢板駅前コンフォートのメンバーの積極的な協力があったり、ヤイタカラプロジェクトの参加があったり、いろいろな団体が参加することで、今年は今まで以上に盛り上がりました。

■点灯式も大にぎわい
点灯式当日は、矢板市に派遣されている四人のALTにも参加してもらい、私のなまっ

■今後の展開は？
バスの発着所の屋根など、もう少し範囲を広げたいと思っています。矢板の中心とも言える駅前、東京なら銀座に当たる場所を少しでも賑やかにするために、ぜひ市民のみなさんにアイデアを提供してもらいたい、飾り付けにも協力していただきたいと思います。

